

色 は 匂 へ ど

IRO

WA

NIO

E

DO



PHOTO SHU FUJIWARA

特集 神仏融合の日本

好評連載 弘法大師の芸術論

西宮 紘

花鳥風月と心の荒びすさ



日本の近代の悲劇は自然を破壊的に支配する
西欧文明を移入したことに始まる

日本人の心の豊かさと礼儀の正しさと識字率の高さは
中世日本を訪れた宣教師達を驚嘆させたが
その豊かな心を育んだ大きな要因は間違いなく
四季折々に色をかえる美しい日本の風土に他ならない
その美しい自然是日本人にとって神であり仏であつた
そしてその諸佛諸菩薩神々はかぎりない

包容力を秘めていた

日本人は豊かな自然を愛で接することでおずから
豊かな宗教心を育むことができた

しかし緑豊かな国土を破壊的に切り開き殺伐たる光景が
拓がり国土が不毛の地となれば
心が荒廃するのも自明のことだ
豊かな心を再生させるには豊かな国土を復興することが
必要最低条件だ

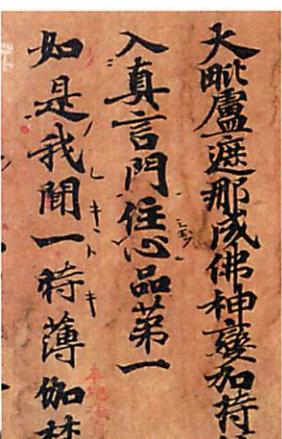
特集

神仏融合の日本

弘法大師墨蹟聚集の会報から
第一回配本の大日經について
奈良国立博物館 西山 厚



3



11

お釈迦さま、真理の花束



13

空海の芸術論 西宮 純

17



新刊とCDの紹介
アルジャーノンに花束を
ダニエルキース



18

現代の道しるべ



15

グレース&グリット ケン・ウイルバー



特集 神仏融合の日本



伊勢内宮の樹木

内宮は胎蔵界曼荼羅の世界 外宮は金剛界曼荼羅の世界

両方を参ることで、金剛胎蔵両部の曼荼羅世界に参れたといつて尊ばれてきた



五十鈴川の清らかな流れ

東大寺大仏殿建立の時、鍍金のための金が国内になく大陸に求めようとしたとき、九州の宇佐八幡のご託宣があり「必ず国内で金が見つかるので大陸への使いは待つように。また我は東大寺を必ず守らん」

仏教が五三八年に日本に伝えられてから、急速に広がり大きな信仰を集めようになる。

推古天皇は甥聖德太子を抜擢し政務にあたらせる。推古天皇は三宝興隆の勅を出され、それ以降有力豪族による造寺造仏が盛んになる。

聖徳太子は『法華經』『勝鬘經』『維摩經』の解説を書かれ、六〇四年には

第一条 和をもつて貴しとせよ

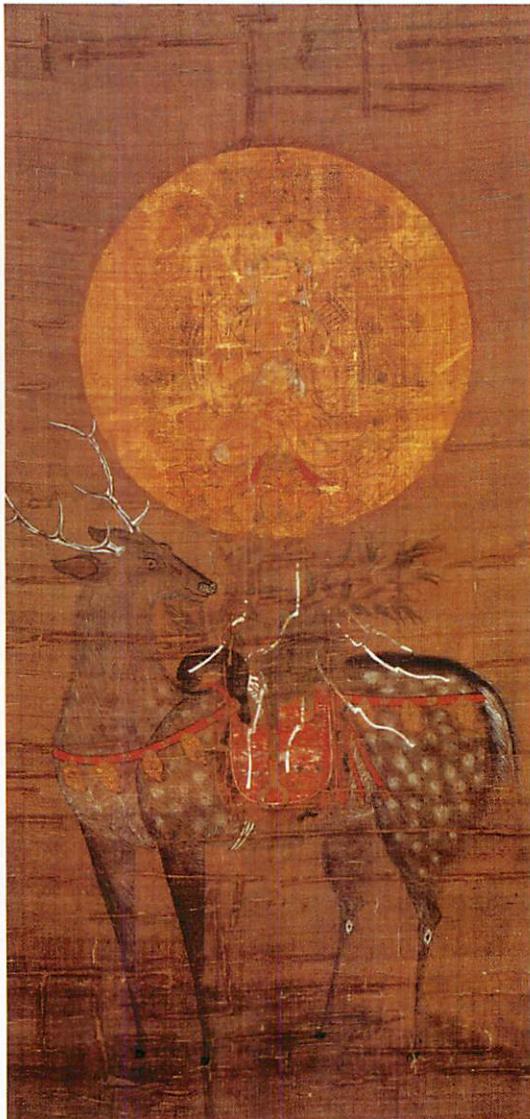
第二条 篤く三宝を敬え

ではじまる十七条の憲法を発布された。

六〇七年には太子自ら父用明天皇の冥福を祈る法隆寺を建立された。

こうした寺院建立の大きなうねりが神道の世界へも拡がり本来社殿を持たない神道の世界に神社を建立するようになる。

ちなみに神道という言葉も仏道にならつて創られた言葉だ。そして六三九年には舒明天皇によつてはじめて天皇建立の寺院が建立され、天智天皇の飛鳥川原寺や筑紫の觀世音寺、天武天皇の大安寺、藥師寺などが建立され、この大きな流れは聖武天皇の東大寺建立という大事業へと繋がっていく。



春日鹿曼荼羅 鹿の上の金輪の中に興福寺南円堂の本尊 不空羂索觀音が描かれる

興福寺蔵

興福寺と春日曼荼羅
興福寺と春日大社はともに藤原氏の氏寺、氏神として名高いが上図の春日鹿曼荼羅は神仏融合の姿をよく顯している。
春日明神は鹿にのつて御蓋山みかさに鎮座された。
平安のむかしより春日社内で鹿にあうことは吉祥とされていた。

鹿の上の金輪の中に描かれるのは春日社第一殿の本地仏である不空羂索觀音。この不空羂索觀音は興福寺の南円堂の本尊である。
興福寺南円堂は藤原冬嗣が藤原氏興隆のため弘法大師に相談して建立された。

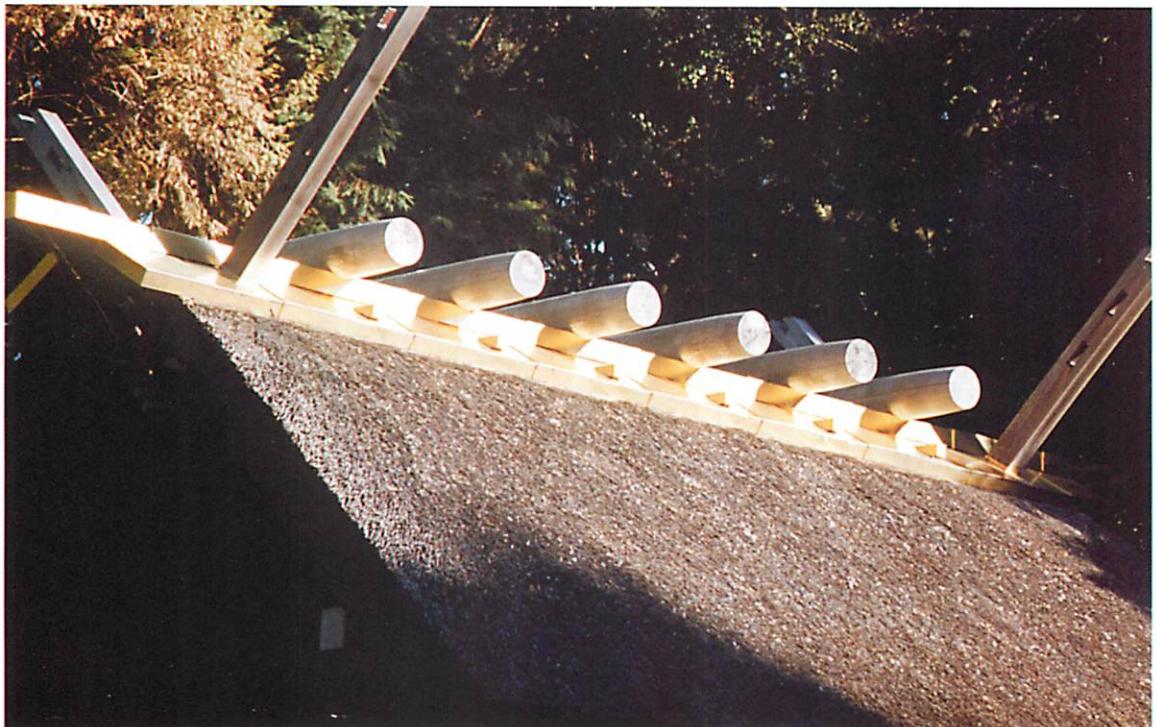
東大寺建立にあたって天皇は橘諸兄を伊勢大神宮に参向させ大仏造立の祈願をさせると同じ月、天皇の夢に玉女となつて大神が現れ、伊勢の大神は大日如来であり衆生はよろしくこの道理を悟り仏法に帰依せよ、というご託宣があった。日本の神々が仏教に帰依し、神自ら寺院建立の託宣をだし各地の神社に神宮寺が建立されていく。

興福寺と春日曼荼羅

興福寺と春日大社はともに藤原氏の氏寺、氏神として名高いが上図の春日鹿曼荼羅は神仏融合の姿をよく顯している。

春日明神は鹿にのつて御蓋山みかさに鎮座された。

平安のむかしより春日社内で鹿にあうことは吉祥とされていた。



もともと藤原氏の大切な念持仏であつた不空羈索觀音を南円堂を建立し、南円堂の本尊として広く庶民に開き多くの人々が祈り導かれるように弘法大師が勧められた。南円堂の前の灯籠に書かれた碑銘は弘法大師が草稿を書き、三筆の一人、橘逸成が書を書いたといわれる。南円堂は興福寺大火のおり何度も焼失するがその都度真先に再建されるほど重要な建物であり、また札所としても大きな信仰を集めてきた。

歳の暮れに行われる春日大社若宮の「おんまつり」は神仏の実在を感じさせ、また日本の能楽、薪能の原風景がある。

深夜に山頂の本殿から白装束の神官に担がれ御輿に乗りお旅所に降りられる。

深夜明かりもない山から下りるのは容易ではないが神官達は参道の石を足で探りながら瞬く間に到着する。お旅所には神木「影向の松」があり竹矢来で結界され入り口は封印がされている。この封印をラチという。

先導の者がこの封印を切つて中に入り様々な芸能は奉納される。

お旅所では奉納の舞楽が奉じられまた山上へ帰られる。

能舞台の背景の松の絵はこの神木を描いている。またラチが開かないという語源もこのラチからきている。



かつて高尾山薬王院の山本前貫首から
「西洋では山を征服するといいますね。山に
自然を人の力でねじ伏せてきたんですね。
私たちは山をいただくといいますね。山に
入させていただく。お山をいただくといっ
てね。高尾において毎日山上に参るわけで
す。その言葉を実感しますね。山に生かさ
れ育まれ教えられ清められるんです。草木
國土悉皆成仏という言葉を大切にしたいで
すね。」

仏教では山も大地も川も海もことごとく
仏菩薩の顯現ととく。この宇宙天地自然を
大きな生命大日如来とする真言密教と日本
の神道が豊かに結びつくのは必然といって
も良い。そして神道に、より豊かな道筋を
つけた。

伊勢は内宮と外宮が拮抗するものがあつ
たが、外宮は金剛界曼荼羅、内宮は胎藏界
曼荼羅。伊勢を参ることで金剛界胎藏界両
部の大曼荼羅の世界に参れたと喜ばれ、よ
り多くの人の信仰をあつめ栄えるようにな
る。

靈氣溢れる山並み 山に入ることが心身を清める行とされ「六根清浄」といって一步一步登る
「六根清浄」とは心の中で、眼・耳・鼻・舌・身・意の六つの感覚を清めること。

しかし明治という時代は神仏の豊かに融合する世界を、神仏分離廢仏棄釈という暴挙によって破壊しようとした。

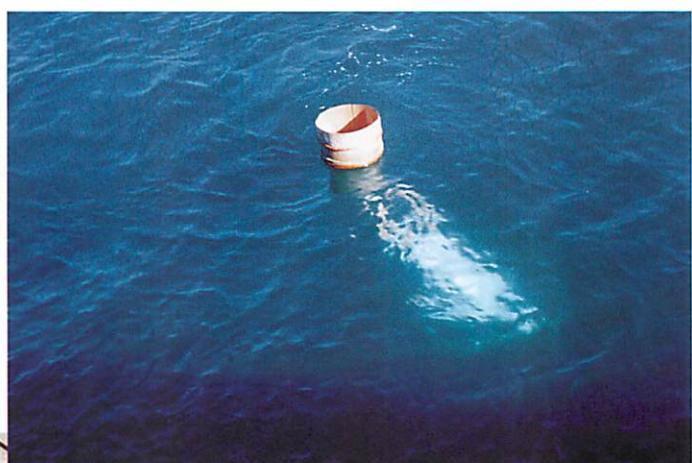
神仏が融合する多元的な世界観が寛容な人々の精神を育んできたが、無謀な仏教排斥運動が人々の心と豊かな自然を破壊する道を突き進んでしまった。そして日本に本来無かつた一神教的な国家神道を無理に創り、地方の多くの村の鎮守や勧請された神社を統廃合した。同時に村の豊かな鎮守の森は無惨にも切り開かれていった。ここに日本の心の荒廃と豊かな風土と花鳥風月の喪失の要因がある。

明治の巨人、南方熊楠はこうした環境破壊に真先に反対し故郷の鎮守を守り抜いた。同時に私たち日本人の多くが政治や一部神道が排仏主義をとなえても一般の人々の中には連綿と受け継がれた寛容な心が根強く残っている。

二十一世紀に向かおうとする今、一神教の争いは市場経済を巻き込みさらに激しくなりつつある。非寛容な一神教の一つの正義をたてれば他はすべて排斥するようになる。お互いに正義をかざして殺戮を繰り返す。

他の文化やことなる宗教民族の意味や価値を豊かに認められれば世界が平和になれる。

私たち日本人が世界に類例のない豊かな自然観をもつ神仏融合世界を築いてきたことは世界に誇れる思想といえる。
環境問題や民族宗教の対立が深刻な今、まず私たちが神仏融合の日本を見つめ直す時だろう。



今も海女は素潜りで海の幸を探る



榦が神々の存在を示す

弘法大師墨蹟聚集の全貌

ほくせきしゅうじゅう

9

国宝 三十帖策子 弘法大師の入唐時代のノート。朱の梵字印も美しく甦る。

（字經亦名三界寶尊勝經亦名如來說大悲門亦名聞如來法不空得記亦名如來微妙法藏亦名如來妙究竟果亦名如來微妙法眼亦名普照諸法寶炬亦名能斷一切耶見亦名願示諸法平等有如是等一切名字時又殊師利復白佛言世尊如是名中雖皆甚深惟願如來為我宣說一名字令我奉持佛言善男子此經決定應名守護國男主陀羅尼是名字汝當奉持所以者何以一切名依此生故余時世尊說此經已一切世間天人阿脩羅乾闥婆等無量大眾聞佛所說皆大歡喜信受奉行

大きな感動を呼んだ第一回の配本の余韻はまだ続き、多くの方々から感謝の手紙が寄せられ、今回の企画の意味の大きさをあらためて思った。

弘法大師の素晴らしい偉業を伝えようとするとき、誰もがその難しさを実感する。お大師さまのあまりにも幅広い活躍、朝廷との深い交流、今の土木技術を持つとしても少しも劣らない満濃池の構築、世界でも稀な総合大学の設立しかも庶民のために大きくその門戸は開かれていた。その活動の多様性はまさにお大師さまの真骨頂だ。言葉では語り尽くせない、その大きさや多様性満ち溢れるエネルギーの限りない包容力。

しかし私達はいまお大師さまが自ら筆を揮われた書に接することができる。この本を開くだけで誰でも弘法大師の大きな運動を膚で感じお大師さまの限りない包容力と多様性、総合性が実感できる。

これほど多くの真筆が残されたことは奇跡といって良いがこの企画を通して所蔵者が不明だつたいくつかの真筆が発見された。そのすべても網羅するこの全集の申し込みの締切が目前に迫った今、ある方からこの全集を世界の東洋美術研究の宝庫、珠玉のようなフランスのギメ美術館に寄贈されることが伝えられた。

（粘葉とは紙を一葉ずつ中央から縦に二つ折りにし、折り目をそろえて積み重ね、各葉外側に糊をつけて前紙と後紙をつなぎ合わせる手法）

大般盧遮那成佛神變如意經卷第一

入真言門住心品第一

如是我聞一時薄伽梵住如來如持廣大金剛法界宮一切持金剛者皆悉集會如來信解遊戲神變生大樓閣寶王高無中邊諸大妙寶王種種閒飾菩薩之身為師子座具金剛名曰虛空無垢執金剛虛空遊步執金剛

假名大嘆曰三界無家可歸不空或天堂為國或地獄獄為家或為汝妻孥或為汝父母有波旬薦師有外道友餓鬼禽獸皆是吾父母妻子自始至今曾無端首惟今至始何有空數如彈

先日、『大聖武』を拝見する機会に恵まれ、興奮覚めやらぬ中、弘法大師墨蹟聚集第一帖が届けられました。

極めて魅力的なクリスマスプレゼントとなりました。（ここは神仏キ混淆ではあります、懐が深くダイナミックな大師さまの寛大さに甘んじてお許し願います）

早速、箱を開け、その美しい装幀を見出すや否や、口と手を清め、同封されておりました責任幹事さまの「刊行によせて」を拝読させていただきました。順番をとばして、師の発願の根幹となります第三帖の大日經から拝見いたしました。（期せずしてその日はサンピエトロ寺院でローマ法王が「聖なる扉」を開けられたのです。）圧巻です。ご苦労のほどがうかがえます。巻本に近づけるべく折本仕立てにして下さったことも鼓動を高めます。深く感謝致します。

第一帖、二帖は大師さまの満ち溢れるエネルギーが放出されるのを感じます、頭脳の回転が筆の運びを遙かに上回っているご様子が浮かびます。筆跡の力強さが錆付いてしまって居ります小生の眼孔を磨いて下さいました。ありがとうございます。

常日頃から、知的好奇心旺盛なご住職さまの情熱がこの不可能とも思える大事業をかくも完璧にまで達成して下さったのであります。原寸大に色、ぬくもりまでも見事に再現された労作です。

御礼申し上げます。

感謝と敬意を込めて

藤澤知之

弘法大師墨蹟聚集の会報より

『大毗盧遮那成佛神變加持經』について

西山 厚

奈良国立博物館 資料管理研究室長

尔特金剛手復請佛言唯願世尊說彼心如
是說已佛告金剛手秘密主言秘密主諦聽
心相謂貪心無貪心瞋心慈心癡心仗
妄心疑心暗心明心積聚心闍心諍心無諍
心天心阿脩羅心龍心人心女心自在心賁
人心農夫心河心放池心井心守護心懼心
狗心狸心迦樓羅心亂心歌詠心憮心擊鼓
心室宅心師子心鵠鷗心鳥心羣刹心刹心

五行目に天心、阿修羅心、龍心、人心、女心の文字が。

『弘法大師墨蹟聚集 一書の曼荼羅世界一』の申し込み締め切りが迫る

お申込お問い合わせは 電話 03-3705-7238 ファクシミリ 03-3703-4979

【大毗盧遮那成佛神變加持經】について

西山 厚

このたび刊行される『弘法大師墨蹟聚集』に、西大寺が所蔵する国宝の

『大毗盧遮那成佛神變加持經』七巻のうちの巻第一が、巻首から巻尾まで全巻にわたってカラーで掲載されることになった。

『大毗盧遮那成佛神變加持經』は唐代に善無畏とその弟子の一^{いとう}行によつて漢訳筆記された密教経典で、『大日經』とも呼ばれ、真言密教の根本経典である。

西大寺が所蔵するこの『大毗盧遮那成佛神變加持經』は、吉備由利という女官が天平神護二年（七六六）に称徳天皇のために発願して書写させた。一切経五千二百八十二巻に含まれていたものである。言うまでもなく本格的な密教は平安時代の初めに弘法大師空海によってわが国にもたらされたが、奈良時代にはさまざまな密教経典がすでに伝えられており、密教の修法も行われていた。

材流記帳」のよれば、この吉備由利発願一切経は四基の厨子に納められ、西大寺の四王堂に安置されていた。『日本紀略』にはこの一切経が天長五年（八二八）に法隆寺へ移された記事があるが、その後も転々としたらしく、本経が西大寺に戻ったのは慶應三年（一八六七）八月のことである。

吉備由利は称徳天皇の信任が厚かつた女官で、『続日本紀』によれば、称徳天皇が病気の時にただひとり天皇の傍らにあって諸事を伝えたという。吉備といふ姓から吉備真備の一族（妹か）と推測されるが、確実なことはわからぬ。

料紙は黄麻紙。書写したのは能筆の写経生と思われる。文字は豊潤で格調高く、奈良時代後期を代表する名品である。

経文には訓読の際に用いた訓点が加えられており、他本で校合した際の書入れもみられる。このうち銀点は長保二年（一〇〇〇）に加えられた仁都波迦点。二種ある朱点のうち古い朱点は承暦二年（一〇七八）に興福寺の龍花樹院で加えられた喜多院点。黒点は文明十一年（一四七九）に石清水八幡宮の香呂山井関坊において東寺の觀智院本を用いて校合をした際のものと、文明十四年と天文十六年（一五四七）に高野山の版本を用いて校合した際のもので、この経巻を各時代の僧侶がいかに真剣に学んだかを物語つている。

ところで、正倉院の聖語藏（もとは東大寺尊勝院の経藏）の経巻四千九百六十巻の全容をカラーカーの精細な画像で出版しようとする事業が進められており、来春には第一期として隋・唐経篇（二百四十三巻）が発売されるという。聖語藏の経巻は従来は限られた人々に、ごく僅かな時間しか閲覧が許されなかつたもので、関心をもつ人々にとつて実に素晴らしい慶事である。

ただ私のようにもう若くない世代に属する人間は、そしていつも実物を手にして考えてきた人間は、正直に言うと、コンピューターによる画像には、親しみを持つことが出来ない。研究の素材（資料）に過ぎないと割り切ればデジタル画像で十分であろう。しかし私はそう考えない。その「もの」に愛情を感じない研究は私には無縁である。愛情とぬくもりを得られない「もの」は、やがて生命を失うことになるだろう。

『弘法大師墨蹟聚集』は、特別に漉いた和紙に原寸大で印刷されており、実物に接するような親しさがある。実際に巻子装ではなく折帖になつているが、全巻を通して見るのはそのほうが便利である。『大毗盧遮那成佛神變加持經』の色校正の際に「天心、阿修羅心、龍心、人心、女心・・・」という箇所が目に入り、強く印象に残つた。活字本で読んだ時にはほとんど印象に残らなかつたのに不思議である。密教については門外漢であるが、この出版を期に『大毗盧遮那成佛神變加持經』を、思いを込めて精読してみたい。

お釈迦さまの真理の花束



If you get a prudent companion who (is fit) to live with you, who behaves well, and is wize, you should live with him joyfully and mindfully overcoming all dangers.

If you do not get a prudent companion who (is fit) to live with you, who behaves well, and is wise, then like a king who leavs a conquered kingdom, you should live alone as an elephant in the elephant forest.

人もし 心つつましく

善を行ずる賢者ものを

友に得れば

すべての困難に打ち克ち

よろこび深く

ともに行くべし

人もし 心つつましき

善を行ずる賢者を

友に得ずば

克ちち得たる領土を

棄つる王のごとく

ひとり行くべし

かの林中の象のごとく

ひとり行くべし



若得賢能伴
俱行業善悍
能伏諸所聞
至到不失意

不得賢能伴
俱行行惡悍

廣斷王邑里
寧獨不為惡

PHOTO&TEXT SHU FUJIWARA

現代の道しるべ

12ページの西山先生の解説を読んで思わず大きくなづいてしまった。

『その「もの」に愛情を感じない研究は私は無縁である。愛情と温もりを得られない「もの」はやがて生命を失うことになるだろう』

学問でも商売でも趣味でもその対象となるものに愛情があればその世界は限りなく広がる。

大塔を建立した棟梁や監督たちが木曾から運び込まれた檜をまるでわが子を抱くように大切に扱う姿。

知り合いの洋食屋のシェフのとつておきの肉を切るときの幸せそうな顔。

西洋画や古美術の世界でもその絵画や美術品に愛情があつて話される方の話しさは拡がりがあつて聞いていても楽しい。

おなじ「もの」を扱っていてもその「もの」をただ利益の対象としか思っていない店の話しさは味気ない。

将来値が上がつても上がらなくても持ち手の心を豊かにしたり楽しませれば十分だと思う。

西暦2000年が大きな問題もなく幕開けしたが経済紙も一般紙も話題の中心は経

濟というより、儲かるか儲からないかといった話題ばかりが先行してしまっている。

すべての対象を儲かるか儲からないかでしか観られない人間ばかりではあまりにも寂しい二〇世紀の最後だ。

ゾウリムシは水の中をはい回つてものにぶつかると二種類の判断ができる。

「食べられる」か「食べられない」か。

食べられれば食べ、食べられなければ意味のない存在なので迂回する。

利益しか見て居なければゾウリムシと変わらない。

先日やる気のある大学生が尋ねてきた。

「会社を作つて社長になつてお金持ちになります。」というので「社長になつてお金持ちになれたら素晴らしいよね。でもお金や地位だけではなくてその会社や社長が周りの人になくてはならない大切な存在になればもつと素晴らしいよね。その会社を創る目的がお金だけではなくて。たとえば人を育てようと思って福沢諭吉は慶應大学を創り、大隈重信は早稲田大学を創り、

り、人を救おうと思って寺院が建てられていて、それぞれ創られたときの哲学や思想がとても大切だと思うけど。』といつたら

「そうですね。儲かる儲からないだけじゃ寂しいですね。哲学とか思想というと難しいけど、この会社にいれば社員は絶対に幸せになれるとか、でも良いですね」「凄く良いね。」

それから話しさ世界の哲学や思想の話になり、日本の聖徳太子が仏教の精神を国の大好きな骨格と考えていたことや弘法大師のスケールの大きな宗教哲学、西行や良寛、道元などに話しが拡がつた。

一時的な浮沈はあつても永く続く会社やお店には一つの精神を感じる。



カルマパ十七世の亡命

◎昭和六十二年にチベットへ行った。成都から空路天空の都ラサへ入ったが空気が澄んでいて天上界への近さを実感する。菜の花が咲き乱れラサまでの道沿いには巨大な磨崖仏が旅人を迎える。ラサ市街に入るとチベット解放三十周年記念行事の深紅の横断幕がかけられている。出来たばかりの近代的なホテルの部屋まで通されたが、北京政府の要人が泊まることになったのでと急遽他の宿舎へ移された。そこはもと軍隊の兵舎で堅固な石造りでチベットの風土とともに合つていて快適だった。かつてウルムチでもホテルが一杯でパオに泊まられたが、パオも換気の悪いホテルの部屋より遙かに快適で、天上的隙間から星が煌めくのは美しかった。チベットは中国に侵略され占領され続けている。中国は声高に過去の戦いを厳しく糾弾する一方で、自らはチベットを侵略し過酷な占領政策を続ける。チベットでのチベット語の教育の禁止、チベット人同士の結婚の禁止。そして最も大きな心の支えである宗教の弾圧。ある寺ではかつて数千人いた僧侶が数十人に減り、寺院の維持のため、また自らの生活のため清掃夫や雑役夫の仕事をしてたりする。カルマパ十七世はチベットが占領されてから生まれた世代だが、インド亡命後最初の説法は

「修行のためには自由が無ければならぬ」

◎昨今不幸な事件が多くなり日本の治安の良さが疑われる。同時に被害者よりも加害者の人権に配慮されるのは納得できない。たとえば被害者はすぐに実名で報道されマスコミが殺到し、心ないそして興味本位の取材を重ねる。同時に被害者に落ち度やらには原因が有つたような報道が多い。一方加害者の実名はふせられ様々な同情論で守られていく。社会が悪い、環境が悪い。社会が善くても悪くとも人として行つてはならないことは、いつの時代でも変わらない。どんなことがあっても人を殺めてはいけないし傷つけてはいけない。そうした中でオウム新法が可決実施され公安調査委員会が速やかな処分決定したことは画期的だつた。犯罪被害者の会（03-3215-3616）も結成された。ニューヨークの治安が良くなっている。ジュリアーニ市長の方針は『小さな割れ窓』。割られた窓の小さな穴はすぐ直すことが出来る。しかし放つておくとどんどん大きくなりやがて建物全体を痛めてしまう。割れた窓は小さなうちに直す。犯罪も小さなうちに取り締まる。財政難で道路も穴だらけのニューヨークで市長は徹底的なリストラを敢行するが警察官は倍増して治安の強化を徹底させた。安全になつた町には活気が戻り観光客や映画のロケも増え、結果的に市の財政も改善された。



◎日本からの莫大な円借款で武器を造り武器を輸出し軍備を拡大し続ける中国が益々増長する。アジアは平和でいられるのか。食料危機を訴え、人道問題で大量の米を要求する北朝鮮が、日本人を拉致し続け日本へ組織的に大量の覚醒剤を密輸することに対しても、日本の政府は誰のための政府なのか。こうした問題を真剣に考え、その声が聞こえるのは石原慎太郎東京都知事と自由党の西村前防衛大臣しかいない。この国将来はあるのか。

◎遺伝子組み替え食品が家庭に入ってきている。しかしこうした植物の花粉が飛散し突然変異で全く異なる新種が登場する危険性は免れない。豊かな土壤から豊かな食物が生産される。手で植えられた苗は病虫害に強い。ある農家は農薬の替わりの鯉を使っている。

弘法大師の芸術論三

精神文化史 研究家 西宮 紘

ということである。

このように奇怪な宙空の遊泳も、その発光体が道の分岐点に達したと思われる瞬間、突如として出現したシテの姿によって終息し、他の観衆と同じように座席に座っている自分自身を再び見いだしたのである。これが、「能」における私の特異な体験なのであるが、果たしてこの体験が、単なる夢にすぎなかつたのか、あるいは何か得体の知れない時空への踏み込みであったのか、今だに私自身判然としないのである。

ところで、その後、このシテを演じた杉浦義朗氏がいかがなされたか私は知らない。氏は、旧幼年学校をお出になつた後「能」一筋に修行なされた方と承るのである。また、氏の力量がどれほどの方なのかも知らない。ただ一つ確かなことは、『鸚鵡小町』を演じた後の余命はいくばくもないというジンクスの故に、これをこの世の最後の演能と覚悟して全力を傾注されたに違ひない

一般に「能」は人間の業である

「モノノケ」の集大成と言われているが、「能」の真髓は人に「モノノケ」が憑くことにある。たとえば、殺人は鬼神が人に「憑く」ことを演じて現実的行為がなされると考えられてきた。他方で、世阿弥の

『至花道』によれば、「能」における「モノまね」は、いわゆる「憑きモノに懸かる」ことであり、換言すれば「憑きモノ」に憑くことだといい、「モノまね」の基本は三体（軍体、女体、老体）であるとするから、世阿弥は結局、人間の業を究極のところ三種類に分類していたと考

えられる。しかも、「憑きモノに懸かる」というのは、シテのみならず、観衆である見者にも要求されるのである。しかし、「憑く」ことはどのようにして可能であるのか。「憑く」ことを可能にするのが二曲（音曲と舞）であるのは論を待たない。『遊樂習道風見』によれば、二曲は「器」は「無」であり、この「器」の中に三体をはじめ万曲の生

景が盛られ云々、とある。音曲は古

くは謡のみをさしていたが、私は囃子も含めてよいと考える。そして、

この音曲こそ、シテ、見所、謡方の相互の呼吸を同調させる役割を、つまりは三者の時空を共鳴可能な波動空間と化す役割を担つてゐるのではないか。私の体験の中に現れた発光

体はまさにこれら三者を波動空間のうねりのただ中に渾然と一体化した「モノノケ」の姿ではなかつただろうか。私自身であると同時に私でない・・・・・。そして、「能」は、最後の段階で慰撫と浄化のプロセスが与えられる。ある意味では、

このプロセスこそ最も重要なクライマックスであろう。つまり、お大師様の言われる「神をもつて会す」ということが、極めて日本的な形で示されている例として「能」を挙げることができる、と私は考える。

本とCDの紹介

アルジャーノンに花束を

ダニエル・キース 早川書房

アルジャーノンはしろねずみ。



ある手術を受けてIQが飛躍的に高くなつた。チャーリーゴードンは三十二才。IQは七十ぐらい。パン屋で雑役をしながら暮らしている。アルジャーノンと同じ手術を受け、チャーリーのIQも加速度的に上がり自分を手術した教授をも遙かに凌駕する知能を身につける。しかしアルジャーノンは急速に得た知能をまた急速に失い命をも失つてしまう。その事実を知るチャーリーの心の変化。

著者は現代社会が抱える多くの問題が知識の偏った探求が人をいやる心や他人と共感する気持ち、異なる民族や宗教、文化の違い、さらに異なる知能のレベルに身を置くことがいじめや虐待の種を減らせると説く。

グレース＆グリット

ケン・ウィルバー 春秋社

岩井 寛 松岡正剛

講談社

バッハ無伴奏チェロ組曲 サキソフォンによる



今世紀の最大の知性、ケン・ウィルバーの自らの愛の物語。運命的な出会いで恋し結婚した最愛のトレイヤをわずか五年で癌で失つたケン。人類の偉大な叡智の伝統（仏教からキリスト教まで）と現代の真理療法（ヒーリング）から瞑想の意味、靈性、心療法までがわかりやすく織りなされ心のガイドブックといつても良い。生老病死に真摯に取り組んだ二人の愛の奇跡、生きることに悩み、病に悩み癌を患う人々に勇気を与える。

「われわれが死者の声を封じてしまふ文化を好んでつくってきたのだとしたら、われわれは生きている文化をつくる力を失いつつあるのかもしれない。」松岡氏のあとがきより
生の尊厳と死の莊嚴が語り尽くされた一冊。



生と死の境界線

「最後の自由を生きる」

清水靖晃

サキソフォンによる

バッハ無伴奏チエロ組曲

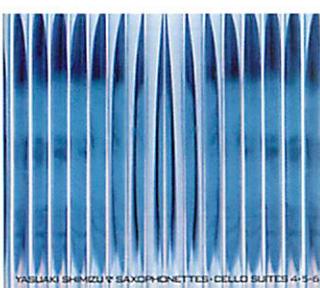
岩井 寛 松岡正剛

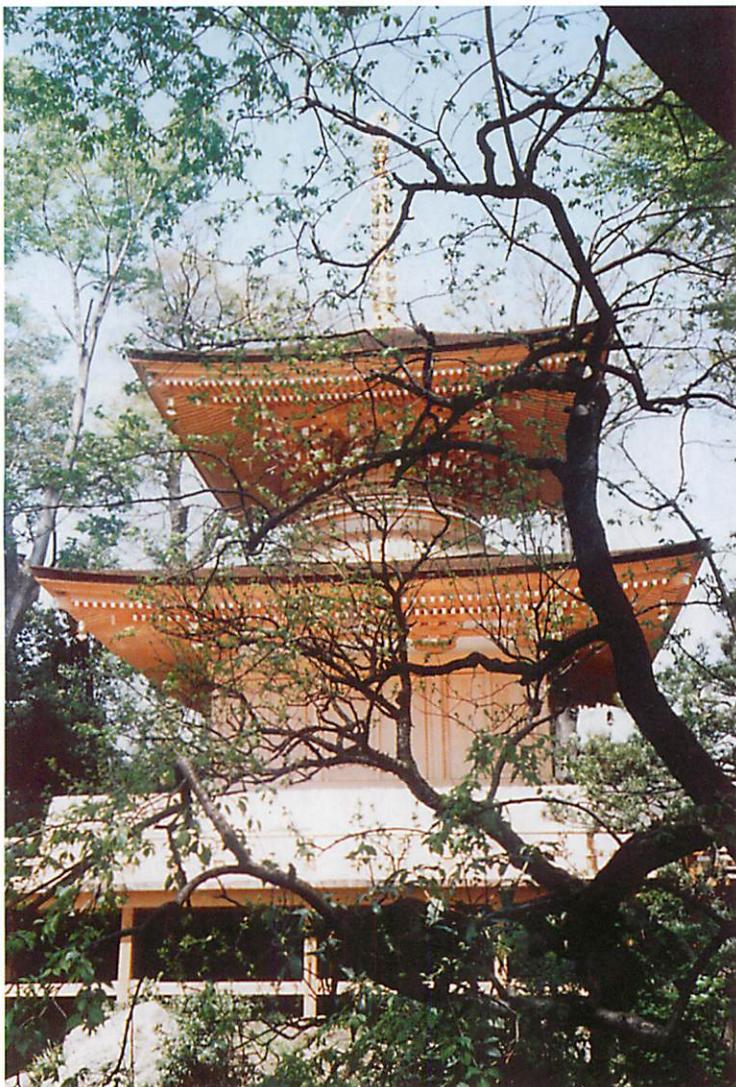
講談社

音楽も紹介して欲しいという読者の要望に応えて。レコード店で不思議なバッハが鳴っていて思わず手に入れて毎日聞いている一枚。

サキソフォンでチエロの無伴奏組曲がこれほど見事に演奏される。それに応える。演奏する空間を選んで。第四番は廃坑になつた地下五百メートルの金石鉱山で。五番はイタリアの貴族コンタリーニが建造した離宮ビラ・コンタリーニで第六番は今も貴族トレントが住む邸宅で。豊かな空間が音楽を天空へ導く。

「色は匂へど」十二号で法隆寺が明治初年真言宗から聖徳宗にかわつたとあるのは、法相宗にかわつたと訂正致します。





次回発行は7月1日予定

特集 塔と大塔

Editor RYUJU ABE Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA Special Contributors/RYUICHI ABE KO FUJIWARA

Editorial Staff/ MIWA SAMIURA KOJI TOKUMARU REIKO ONUKI KAZUFUMI MOTOYAMA

Homepage Design MASAAKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA Printing KORINKAKU

Publisher RYUBUN ABE Editor RYUJU ABE Editorial Office MANGANJI SHUGEISHUCHIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Heronics Irowanioedo 第一卷第十四号 平成十二年弥生一日発行